

(資料3) 公開シンポジウム参加者事後アンケート結果

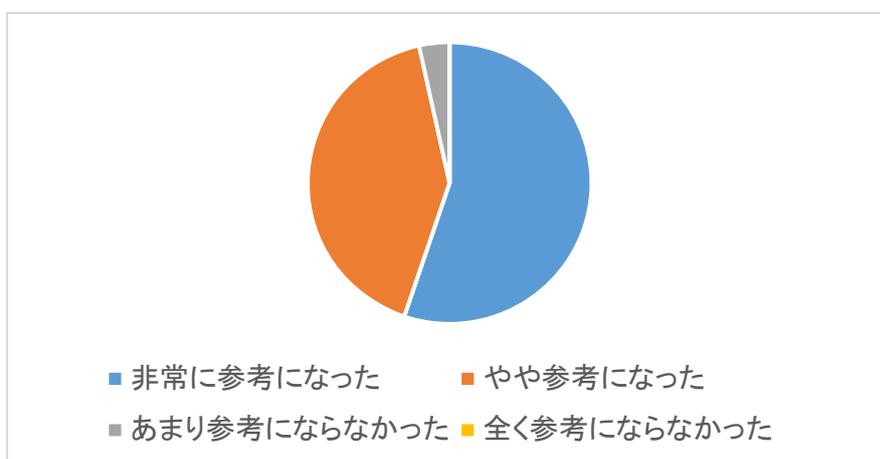
2024年3月20日にハイブリッド開催した公開シンポジウムの参加者およびオンデマンド配信した録画の視聴者を対象に Microsoft Forms を用いたアンケート調査を実施した。3月31日までに58件の有効回答が寄せられた。

以下に、アンケートの調査項目と寄せられた回答の集計結果を示す。

公開シンポジウム「医療需要や医師の働き方等の変化を踏まえた病院薬剤師の需要把握のための研究」にご参加ありがとうございました。本シンポジウムに参加された皆様を対象に無記名のアンケート調査を実施いたします。アンケート結果は、研究班の報告書作成に活かしたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます（回答期限：2024年3月31日）。

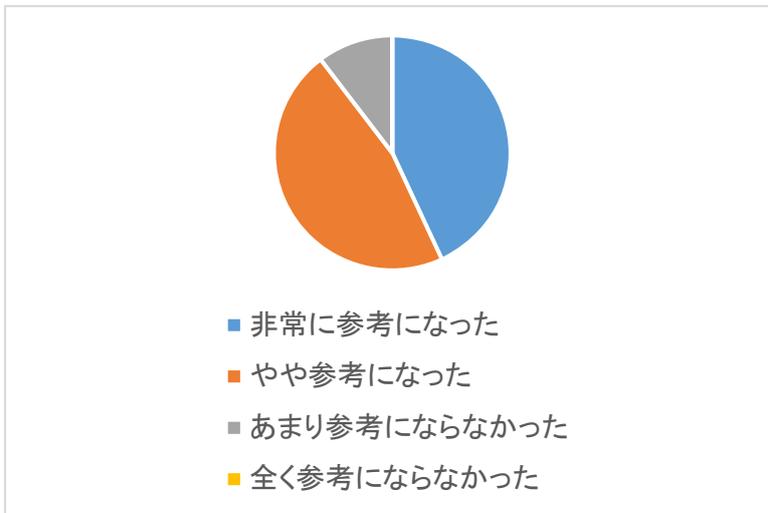
問1. 今回のシンポジウムは、お役に立ちましたでしょうか。(n=58)

- | | |
|------------------------------------|----|
| <input type="radio"/> 非常に参考になった | 32 |
| <input type="radio"/> やや参考になった | 24 |
| <input type="radio"/> あまり参考にならなかった | 2 |
| <input type="radio"/> 全く参考にならなかった | 0 |



問2. 本シンポジウムで報告したDPCデータに基づく病院薬剤師の需要推計は参考になりましたか。

- | | |
|------------------------------------|----|
| <input type="radio"/> 非常に参考になった | 25 |
| <input type="radio"/> やや参考になった | 27 |
| <input type="radio"/> あまり参考にならなかった | 6 |
| <input type="radio"/> 全く参考にならなかった | 0 |



問3. 本シンポジウムで報告したDPCデータに基づく病院薬剤師の需要推計について、あなたの意見や要望をお聞かせください。

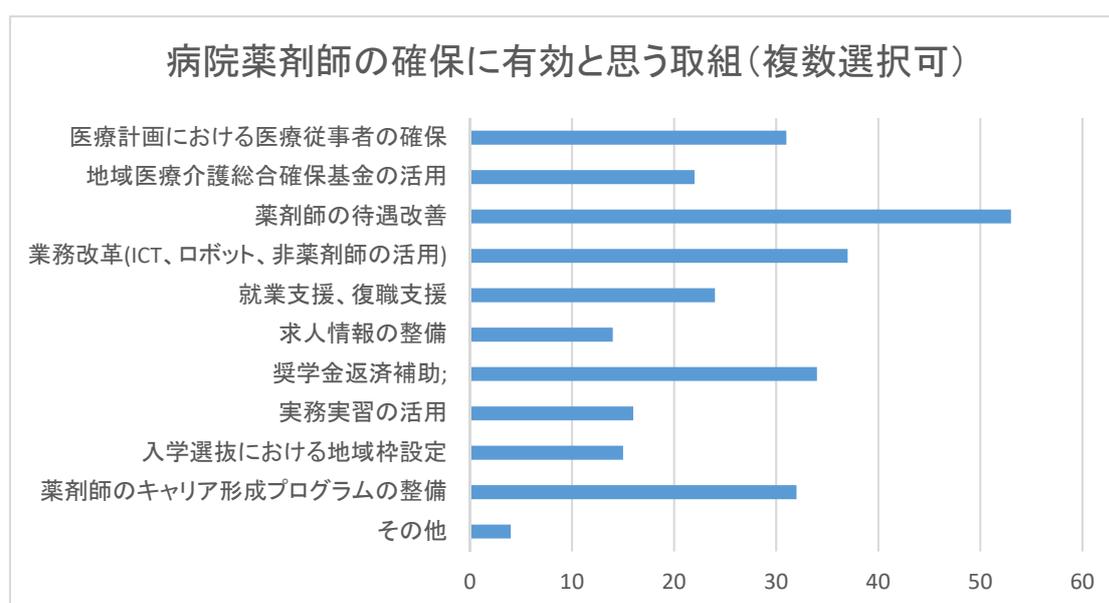
- ・病院機能によって必要な薬剤指数が算出されるようなシステムがあるとありがたい。
- ・DPCデータに基づく病院薬剤師の需要推計は可能なのか、やや疑問が生じた (limitation があまりにも多い)
- ・業務が多岐に渡りつつあるので、どの業務を行うとどれくらい追加が必要なのか、などその点も加味した推計を更に知りたいと思いました。
- ・中々慣れない解析のため、理解が難しかった。また、武田先生の質問にあったような病棟業務における薬剤師の役割が数値化されることを望む。ぜひこのような研究は論文化するなどして、単施設でも解析できるようなモデリングができることを期待したい。また、薬局薬剤師と病院薬剤師の転職について、1枚の絶対数のスライドから難しいことが分かった。価値観は学部生時に出来上がるのだと、改めて理解した。
- ・具体的な薬剤師の必要人数が提示されることを期待していたがなかったため今後に期待する。
- ・質問の回答にあった通り、さらなるデータ蓄積が必要かと思います。
- ・共通の病院薬剤師の需要の指標の1つとなればと思います。
- ・今回ご発表されたデータにはまだ仮定や限定的な部分があり、これらのデータを自施設レベルに落とし込み、経営者に提示するにはまだ難しい部分があるという印象ですが、うまく活用して薬剤師確保に向けた取り組みができればと思います。
- ・様々な機能特性がある日本の医療機関において、単純に病床あたりの人数を示す方針で良いのか疑問に思いました。また、DPCデータはあくまで算定された結果やその時点での施設機能を反映している情報であり、実際の薬剤師の関わりを反映していないため、安易な必要人数、回帰分析や重回帰などでの結果を解釈すべきではないと思います。
- ・薬剤師の業務が多岐にわたることが、逆に具体性をもった説明をしづらくさせている面

はあると思われるが、さらに研究・検討を発展させて強力な発信力のある結果を出して欲しいです。

- ・様々な解析などから、必要な薬剤師数が足りなそうな事は理解できたが、今後、どうしていくのかが見えてこない。地方の中小病院には、どうしたら薬剤師が来るのか。
- ・理想的な薬剤師の人数がわからなかった。なんとか現場にあった人数をデータとしてあわせていただきたい。
- ・分析は継続して欲しいです。
- ・病院薬剤師が不足していて、病棟業務等ができにくいことは理解できましたが、それを裏付けるDPCデータはよくわかりませんでした。説得力のあるご提案を希望します。

問4. 病院薬剤師の確保に有効と思う取組はどれですか（複数選択可）。

○医療計画における医療従事者の確保	31
○地域医療介護総合確保基金の活用	22
○薬剤師の待遇改善	53
○業務改革(ICT、ロボット、非薬剤師の活用)	37
○就業支援、復職支援	24
○求人情報の整備	14
○奨学金返済補助	34
○実務実習の活用	16
○入学者選抜における地域枠設定	15
○薬剤師のキャリア形成プログラムの整備	32
○その他	4



問 5. 病院薬剤師や薬局薬剤師の将来像について、あなたのお考えをお聞かせください。

- ・スタッフが働く環境整備を改善していくことで早期の離職を防げるのではないかと考えています。
- ・受け身から脱却。利他的主義の追求だと思います。
- ・病院内で必要とされる薬剤師が増える将来を望んでおり、学生実習に取り組んでいます。そのような実務実習が多くの施設で実施されることを望んでいます。
- ・機械や AI に取って代わられる中で、自分たちが何をしなければいけないのかを考えることが重要。
- ・対人業務が中心で、医師や他の医療者と共に関わりを持っていく。
- ・働きながら、あるいは退職後に大学院博士課程に進む薬剤師が増えています。人生 100 年時代を迎えて、是非高齢者の意欲ある薬剤師も活用してほしいと思います。若い薬剤師や学生、大学の薬剤師経験のない教職員にも刺激になると考えます。
- ・個人的には臨床の薬剤師による研究活動にまつわる動向を注視している。最近、大学病院の医師について、研究活動は本業である旨の周知が行われたが、薬剤師についても同様の流れができると良いと思っている。(全部が全部は難しいと思うが、たとえばある一定の条件を満たした人やテーマでの研究活動を、業務時間内に、給与をもらいながら行えるような形になると良いなと思います。)
- ・日々の業務が評価され国民から信頼される医療人になるようビックデータを利活用されるよう期待する。
- ・大手保険薬局の統合も進んでいるなか、病院個別での薬剤師確保策にも限界がある。国や都道府県単位での働きかけによる新人の確保、転職・退職せずに継続して働ける環境づくりが必要と感じる。病院薬剤師の「やりがい」や「魅力」だけでは継続できず、辞めていく病院薬剤師が多い。
- ・DX 化の進化に伴う「調剤」の定義を見直し、病棟業務や地域活動の中で薬物治療上の問題や患者の背景、人生観を踏まえた多様な治療選択に対する方向づけ、助言が、AI と共存する中での役割になるのではないかと考えています。
- ・今後求められる役割が多様化していくが、結果を目に見える形で残すことと、条件のない自由な選択が出来る環境が大事だと思います。
- ・生成 AI が薬剤師業務の内容に大きく影響するだろうから、AI と薬剤師が住み分けができるように訓練することを今から意識すべき。病棟業務には患者のメンタルをモニタリングできる能力と時間を持てるようにすべきだし、薬局薬剤師は薬局内の業務全般に指示が出せるように自己研鑽する機会を多く持つべき。
- ・薬剤師確保困難な施設や地域では、業務の洗練化が行われ、薬剤師でないとできない業務だけを行うようになると思います。また非薬剤師による薬剤関連業務も拡充し、病院における薬剤師人数は減少していくのではないかと予想しております。
- ・薬剤師・薬学部と医師・医学部は、制度も歴史も全く異なることから、医師・医学部の

取組の模倣ではなく、独自の制度設計を考えていただきたい。診療所、高齢者施設、製造販売・製造業、販売業、行政などほかの従事先とのバランスも考えないと、いけないと思います。また、病院薬剤師に関する厚生労働省の窓口は、医政局総務課でよろしいでしょうか。多くの都道府県で、薬剤師確保計画は、薬務主管課がかかわっていますので、病院薬剤師に係る情報の提供・共有をお願いします。

- ・ これからの薬剤師は、身近にある電子情報や DX、ロボットをフル活用し、新しい関わり方をするようになると思います。しかし、タイパ、コスパ重視世代の学生は、能動的に情報を取得しに行くことはなくなっています。学生時代から病院薬剤師や薬局薬剤師だけでなく、職能団体や学術団体についても日頃から理解できるような環境（実務家教員や現場の薬剤師）が薬学部には絶対必要ですが、薬学部のほとんどが、基礎系教員あるいは、一般職員が学生の教育に関わっており、その環境を変えることが急務であるように思います。一個人として様々な方法で収入源は得られる世の中となるため、他との繋がりの重要性を教えないと職能団体や学術団体は今後、勢力がなくなり世の中を変える力も益々なくなってしまうのではと危惧しています。
- ・ 基本的には、医療の進歩に伴って生涯にわたり学んでいく薬剤師であるべきだと考えます。そのためには、薬剤師の待遇改善はごまかしのきかない喫緊の課題と思います。しかし現実問題として、給料面の改善だけでは限界があると考えますので、学部時代の学費や薬剤師のキャリアアップ（例えば学会参加や専門取得等）のための費用負担といった対策も取り入れることで、生涯にわたり学んでいく薬剤師像を各方面にアピールしていく必要があると思います。
- ・ 病院薬剤師は調剤から離れて、病棟や外来で活躍する事は同感です。そのために調剤機器の DX 化が不可欠。しかし、その費用について管理者の理解が全く得られない現状。他に、地方の病院薬剤師不足は深刻である。特に薬学部なし県は、将来像なんか見えない。
- ・ 病院薬剤師の確保は、大学受験の時期からはじまっていると思います。近年、薬学部を希望していた高校生が看護部を希望しているのではと、実際に子の受験を経験して感じます。やはり、奨学金やその後の補助などが影響していると考えます。看護師の専門性は年々高くなってきており、労働環境もかなり改善されてきているなかで、6年大学に通いその後の給料をみると薬学部の魅力はどうかと・・・待遇改善が第一ではないかと考えます。一般病院は医師との距離も近く、学生が実習で経験できることも身近に感じることができるよう当院では、現場で働く薬剤師がちからを注いでいます。病院に興味をもってもらっても、奨学金を返済しないといけないからと話す学生は多いと感じています。
- ・ 社会からの期待や責任に対して、薬の専門家としての自信と誇りを持って、夢のある活動を続けていただきたいと思います。
- ・ 夜勤や休日出勤があるから病院への就職は望まないとの学生の希望を聞いたことがあります。

ます。病院内での待遇改善や薬局と病院との連携が進み、6年制薬剤師が6年間勉強した医師や獣医師と同じくらいに、患者から慕われ尊敬される存在になることに期待します。

- ・ 小学校の卒業式に参加し「将来は薬剤師になりたい」と宣言してくれた子がいて、嬉しさと同時になぜ薬剤師になりたいのだろうと思った。薬剤師という職業に高収入や安定を求めている時代があったが、薬剤師に対して今はなにを求めているのだろうか。自身は薬のスペシャリストとして「薬あるところに薬剤師あり」で現場からは一定の評価を受けて仕事をしている。しかし病院の仕事は大変と感じる実習生には「どんな薬剤師になりたいのだろう」と心配している。薬剤師は大変な仕事だけど、薬のスペシャリストとして、自信をもって「私は薬剤師です」と仕事を行えることが大切だが、病院薬剤師として仕事が増える一方で人員は増えない、給料も上がらないの若手の薬剤師は「大変」と嘆いている。薬のある現場で薬剤師ができると思うが、人員増や給与体制はもちろん、診療報酬改定や医療機能評価を活用して、大変な仕事にみあった制度設計づくりをしていただきたい。

問6. 本アンケートは、シンポジウムの事前登録システムから独立した無記名の調査システム（Microsoft Forms）を利用しています。アンケート結果の解析のために、回答者の所属について、当てはまるものをお選びください。

- 大学 6
- 病院 44
- 薬局 1
- 企業 0
- 行政 3
- 学生 3
- その他 1